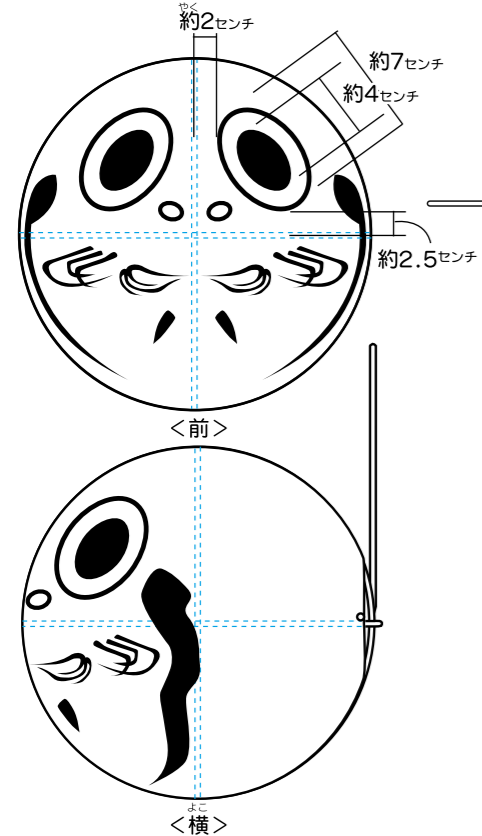


# 金魚ねぶたをつくろう

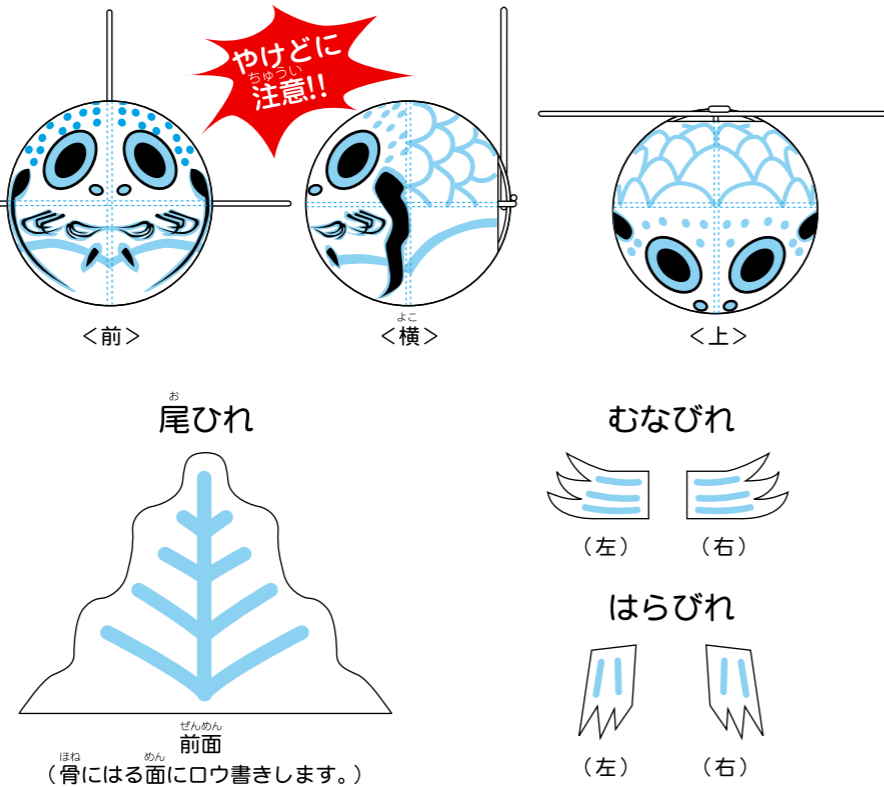
## すみ入れをしよう

5 下の図を参考にすみ入れをします。目は家にある丸いものをさがしてあてて書きましょう。



## ロウ書きをしよう

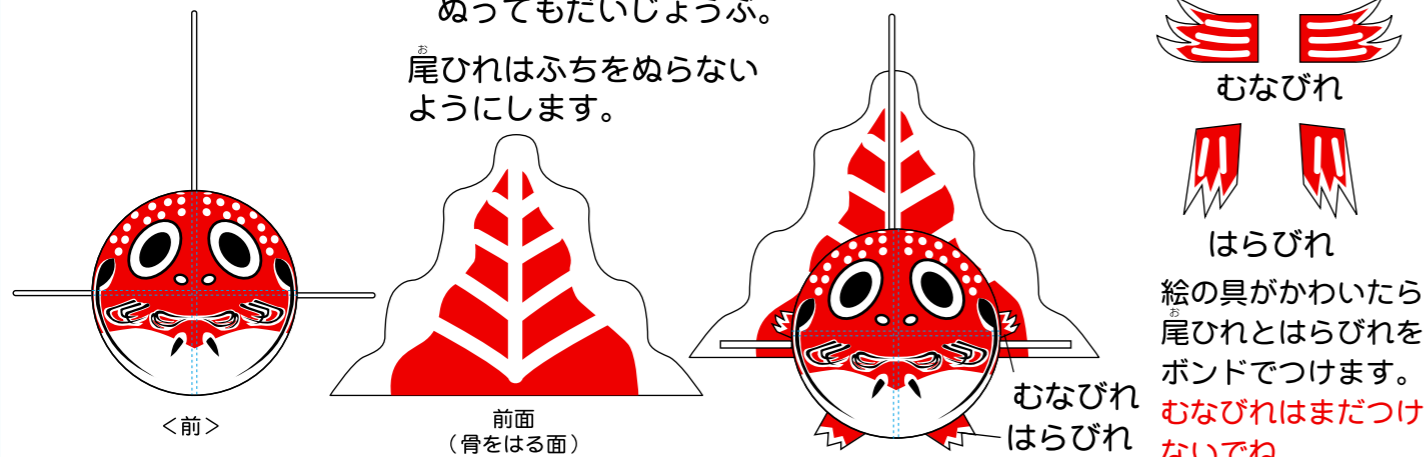
6 下の図の水色で描いた模様を参考にロウ書きしてください。すばやく書いたほうが、できあがりがかいになるのでがんばって!!



## 色を付けよう

7 赤い色はロウ書きした上からぬってもだいじょうぶ。

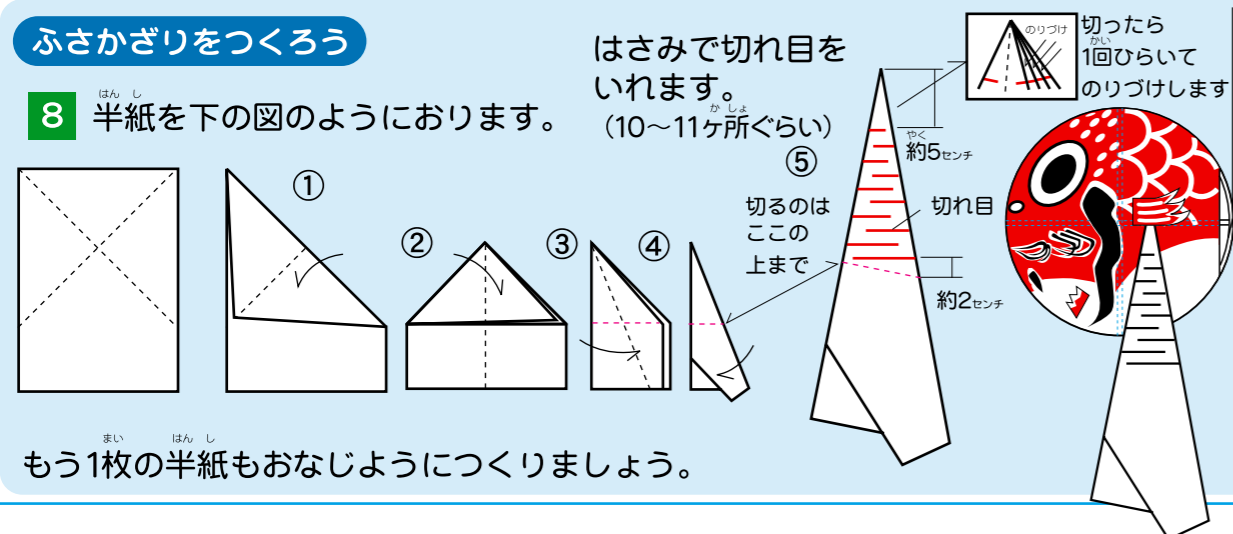
尾ひれはふちをぬらないようにします。



## ふさがざりをつくろう

8 半紙を下の図のようにおります。

はさみで切れ目をいれます。(10~11ヶ所ぐらい)



**金魚ねぶたの由来**  
 ねぶた祭では主に小さな子供たちの持ち歩き用のねぶたとして使われています。  
 金魚ねぶたの形は江戸時代から津軽地方で飼育されていた金魚「津軽錦」(つがるにしき)がモデルになったといわれています。まん丸いどうたいと立派な尾ひれ、そして背びれがないのがとくちょうです。

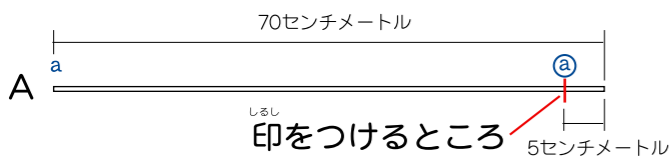
たのしんで  
 ついでに  
 ね



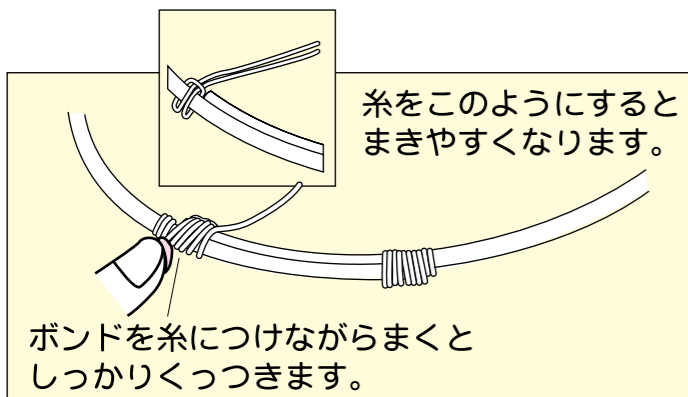
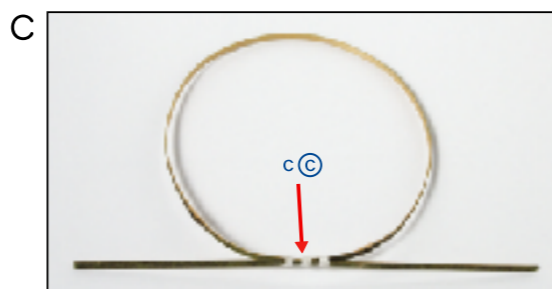
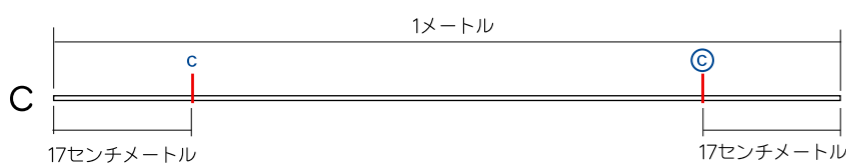
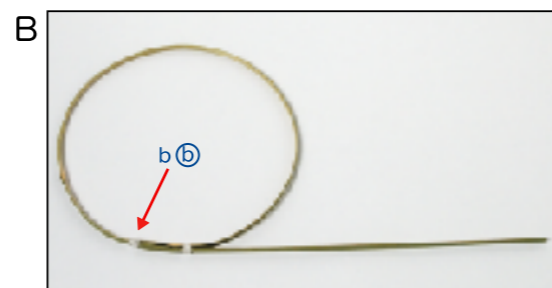
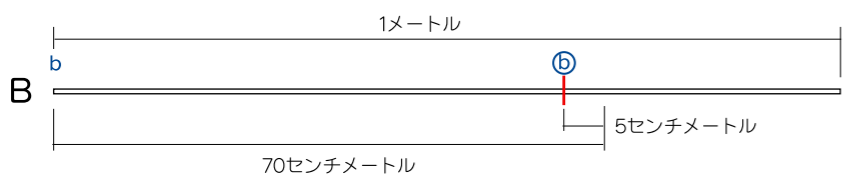
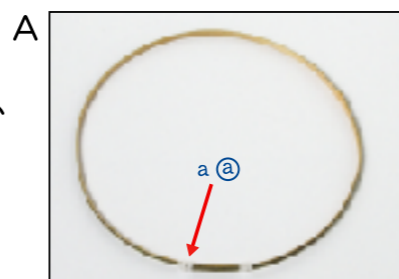
**骨組みをつくろう** 金魚ねぶたをきれいに作るには骨組みがだいじです。がんばって作りましょう。

**1** A.B.Cの竹ひごで3つのわを作ります。

わの大きさを合わせるため鉛筆などで印をつけましょう。



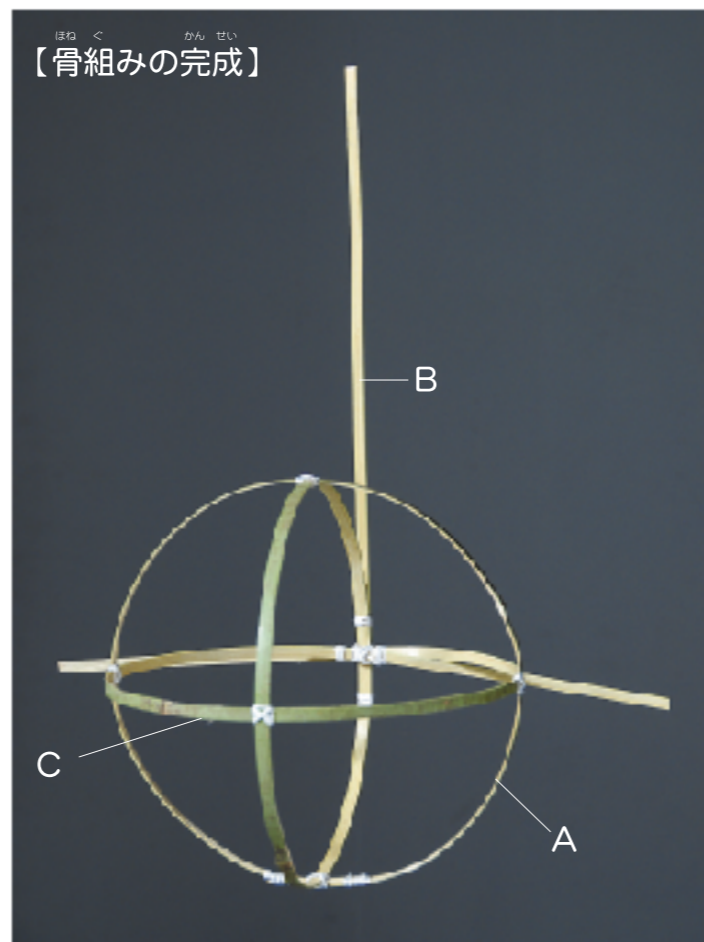
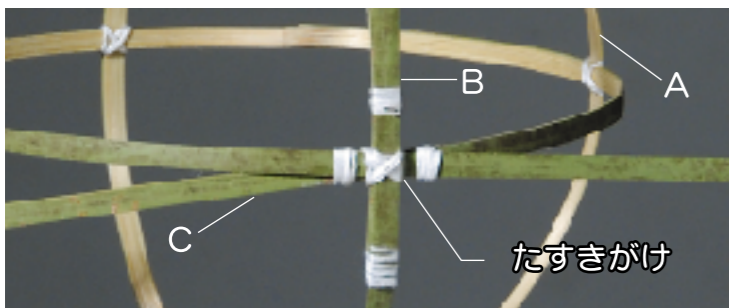
赤線の位置でaとⒶ、  
bとⒷ、cとⒸが  
重なるように  
合わせて糸で  
結びましょう。



**2** 3つのわで球をつくります。  
BとCをくっつけてさいごにAをつけます。

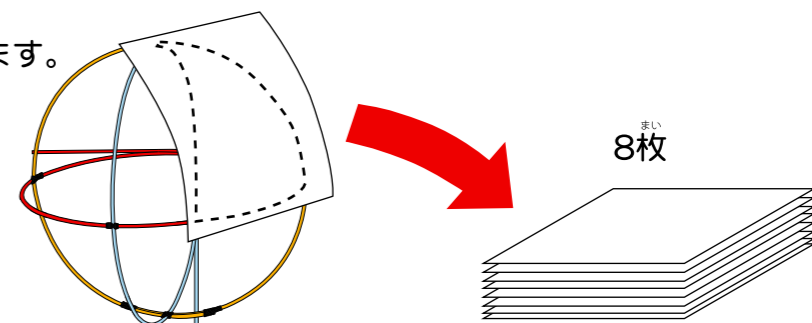
たすきがけでむすぶとしっかり止まらます。

後ろから見たところ

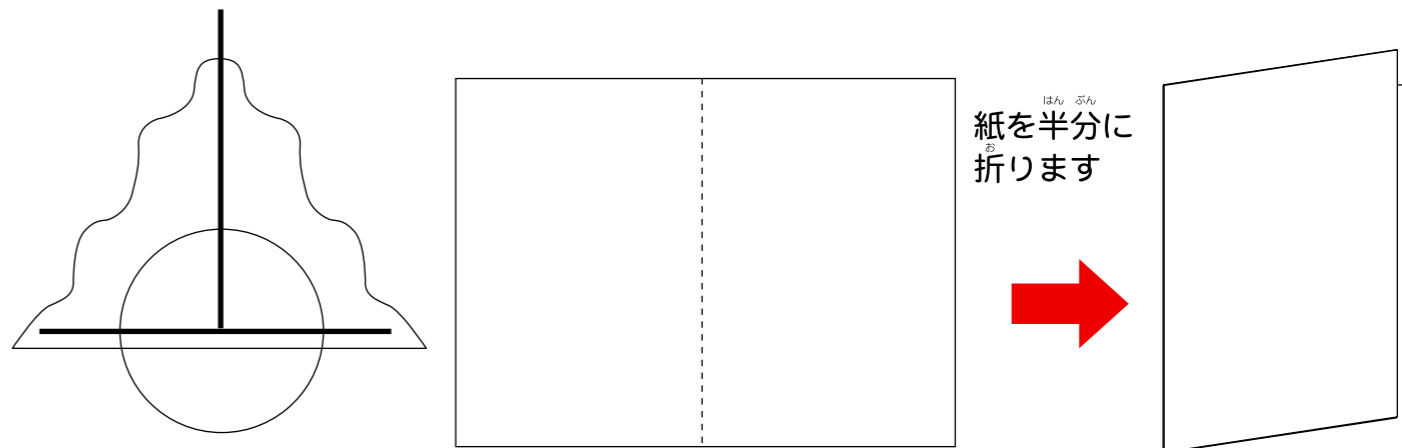


**3** 骨組みにはる紙を用意ます。

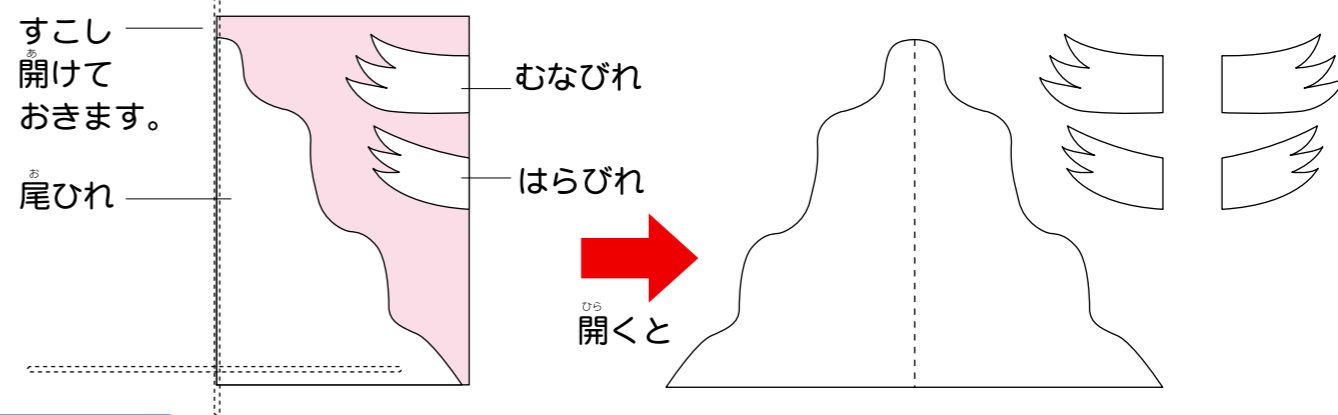
胴体の部分の紙は枠よりも  
少し大きいものを8枚。



尾ひれ、むなびれ、はらびれの作り方（尾ひれは竹ひごより大きめに作ります。）



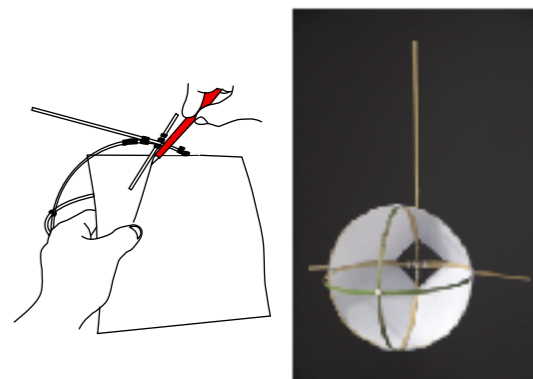
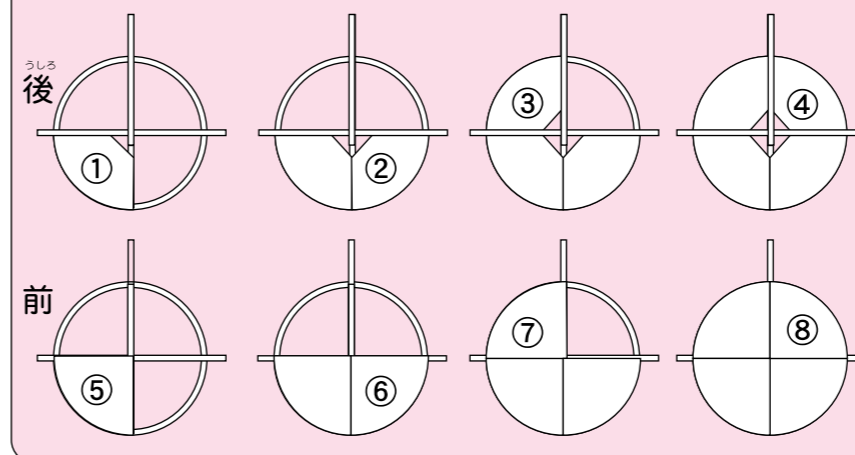
えんぴつで尾ひれ、むなびれ、はらびれをうすく書いて切ります。



**紙をはろう**

**4** わくにボンドをぬって和紙をはってくだます。  
ボンドがかわいたらはみ出たところを  
カッターで切ってください。

後ろの左の下から順番にはるときれいにできます。



できるだけ、はりのこしの  
ないようにはると、  
しあがりきれいでます。

後ろの部分を開けるのは  
絵の具を塗る時に  
骨組みをつかんで金魚ねぶたを  
よごさないためです。